

令和7年度愛知県海岸漂着物対策推進協議会議事録

1. 開催日時

令和8年2月19日（木）午後1時45分から午後2時40分まで

2. 場 所

愛知県自治センター 6階 602会議室

3. 議 事

（1）海岸漂着物等対策に関する2025年度の実施状況について

資料1-1から資料1-8により海岸漂着物等対策に関する2025年度の実施状況について説明した。

<質疑応答>

【千葉委員】

河川マイクロプラスチックの調査結果について何点か質問したい。

まず、調査結果の資料に2次マイクロプラスチックの写真が掲載されているが、最初から5mm以下で製造された1次マイクロプラスチックは確認されたのか。海で見つかる1次マイクロプラスチックには、レジンペレットや被覆肥料の殻が非常に多い。時期の関係もあるかもしれないが、これらの1次マイクロプラスチックが今回の河川マイクロプラスチック調査で確認されたのかどうか確認したい。

また、マイクロプラスチックの採取に当たっては、ネットを用いたと思うが1mmのメッシュを用いて調査を行ったのか。加えて、「ろ水量」が12~15^m程度で少ない印象を持ったが、どれぐらいの時間で調査を行ったのか。

今回の調査は、河川から海に出るマイクロプラスチックに関する貴重なデータであるところ、他の河川との関係についても、もし分かれば教えてほしい。

最後に感想となるが、今回の調査ではPETとABSが多く確認されているが、これらは海ではほとんど採取されないため、河川だからこそ採取されたのではないかと思い、興味深かった。

【事務局（調査委託業者の回答を含む）】

今回の調査では、1次マイクロプラスチックである被覆肥料の殻は確認されなかった。ネットは目開き0.3mmのものを利用した。また、今回の調査では、3地点の左岸・流心・右岸の3か所の計9か所で調査を実施しているところ、いずれのろ水量も概ね13~16^mとなっており、環境省のマニュアルで指定されている量以上で調査を行っている。

また、他の川との関係について、今回調査した木曾川に関しては、他の河川の流域背景や人口密度の違いもあり一概には比較できないが、他の河川の個数密度と比べると低めの水準であると思われる。

【千葉委員】

次回このような調査が行われる場合には、田植えのシーズンの5月や6月に調査を行うと被覆肥料の粒が多く確認されると思うので、時期についても検討するとよいと思う。

【事務局】

来年度の実施予定はないが、今後このような調査を行う際には、いただいた御意見を参考にさせていただければと思う。

【青木座長】

海洋ごみの組成調査について、遠州灘西七根周辺では、人工物として「木（木材等）」が多いという結果となっているが、その理由は何か。また、JICA の研修で講義を行うに至った背景や資料をどのように作成したかについて教えてほしい。加えて、啓発資材は製作から時間が経過しており、少し古いのではないかと思うがどうか。

【事務局】

資料 1－6 の 2 枚目に記載のあるとおり、今年度は、木（木材等）が多い結果になったが、西七根周辺では年度により特徴も異なる傾向があり、多い理由については現時点では把握できていない。

JICA のインドネシア向けの研修では、伊勢湾流域圏海洋ごみ対策推進広域計画といった愛知・三重・岐阜での広域的な連携について説明してほしいとの要望を受け、対応したものである。資料は愛知県で作成し、JICA に翻訳してもらい説明を行った。

御指摘のとおり、啓発資材は製作から一定期間が経過しているが、実際に小学校や中学校で環境学習プログラムを実施してみると、非常に楽しみながら学習してもらえているので、普及啓発としては依然として効果があると思っている。

【国土交通省中部地方整備局】

今年度の海洋ごみ組成調査では、小鈴谷周辺では重量ベースで他の 2 地点と比較してもオーダーが異なり、また例年と比較しても数倍以上と多くの漂着ごみが確認されている。自然物としては何が一番多かったのか。なぜ今年度は多いのか。

【事務局】

調査実施者からは、今年度は流木が多かったとの報告を受けているが、理由までは把握できていない。

（2）海岸漂着物等対策に関する 2026 年度の実施予定について

資料 2－1 により海岸漂着物等対策に関する 2026 年度の実施予定について説明した。

<質疑応答>

【千葉委員】

3 県での広域連携は非常に大切であると思う。3 県の広域連携の取組の実施予定や実施結果についても協議会で報告してほしい。

【事務局】

来年度以降の協議会で報告する方向で検討したいと思う。

【青木座長】

具体的に 3 県の広域連携として取り組んでいることは何か。

【事務局】

3 県で一斉清掃を呼び掛けているほか、今回の協議会では新たな取組として三重県の担当者から、三重県における海岸漂着物対策に関する調査結果についてオンラインで報告いただく。できるところから連携を図りたい。

【青木座長】

県外でもイベント情報を周知するなど、小さいところから連携を始めてみてはどうかと思う。

【千葉委員】

3県で広域計画を策定しているので、今回の協議会では三重県との連携を図っているが、岐阜県とも連携を図ってほしい。

【青木座長】

プラスチック削減PR隊に「あいちプラごみ無くし隊」が含まれるのか。

【事務局】

愛知県が結成したPR隊の名前が「あいちプラごみ無くし隊」という名前である。今年度の「あいちプラごみ無くし隊」は、プラスチックの削減を若者にPRするため、街中でのごみ拾いや名古屋市の藤前干潟の清掃活動に参加し、その活動結果をSNS等で情報発信した。当該啓発活動は、来年度も引き続き実施する予定である。

【蒲郡530運動推進協議会】

今年度の漂着ごみ組成調査は11月に実施しているが、7月頃に実施した方がよい。花火大会のシーズンや9月頃には清掃を行っており、その後に調査を実施しても正確な調査結果は得られないのではないかと。また、時期によって風向きが変わり、夏には南風に乗って多くの流木等が漂着する。調査の実施時期については検討してほしい。

【事務局】

漂着ごみ組成調査では、同じ地点・同じ時期に調査を行うことで、経年変化を確認するという意味合いもある。時期については検討させていただく。

(3) 海洋環境整備船「白龍」について（活動紹介）

資料3により、中部地方整備局から海洋環境整備船「白龍」の活動について紹介があった。

<質疑応答>

【千葉委員】

誰がどのように漂流ごみは見つけているのか。また、実際に川から流れ出た流木のうち、どの程度を捕捉できているか。

【国土交通省中部地方整備局】

海洋では潮目に流木が集まる傾向があるところ、従来は海面の状況を捕捉するレーダーを用いて潮目を予測していたが、ここ数年は気象データを用いて潮目を予測している。ちなみに、台風や大規模な出水の影響もあるかもしれないが、冬場に漂流物が少なく、夏場に多い傾向がある。流木等の漂流物の由来は伊勢湾だと木曾三川など大きな河川が想定されるが、具体的な捕捉割合までは分析していない。

【青木座長】

先ほどの事務局からの説明では、2022年度の台風の際には、表浜海岸に流木が漂着し、災害関連緊急大規模漂着流木等処理対策事業の活用実績があった旨の説明があったが、伊勢湾には流木は流入しなかったのか。

【国土交通省中部地方整備局】

海が穏やかであれば漂流物はゆっくりと漂流するが、台風の場合は台風が収まる頃には既に流木等が漂着してしまっていることもある。回収量が何に一番影響を受けるのか、海岸に漂着するごみに何があり、どのような因果関係があるかについては、先ほどの愛知県組成調査でも一部報告があったが、当方も気になるところである。

【青木座長】

白龍には油回収装置があるとのことだが、どの程度の頻度で油を回収しているのか。

【国土交通省中部地方整備局】

頻繁にあるものではないが、何かあればすぐに対応できるよう訓練はしっかり行っているところである。

4. 講演

資料4により、三重県から、三重県における海岸漂着物対策に関する調査結果について説明があった。

<質疑応答>

【事務局】

河川敷における散乱ごみの調査について、調査対象範囲の幅は何メートルか。

【三重県】

河川によっては調査できる範囲に制限があるものの、基本的には環境省の海岸での組成調査に関するガイドラインの考え方に沿って調査を行っている。海岸での組成調査と同様に、一定の範囲に絞り、その範囲における散乱ごみを全て拾い、調査を行った。

【事務局】

レジ袋の有料化から時間が経過しているものの、令和6年度の三重県の調査結果では、ポイ捨てごみに占めるポリ袋の割合が高く、思ったよりも多いという印象を持った。

【三重県】

レジ袋の有料化によりマイバックが普及したものの、ポリ袋をポイ捨てしてしまう層に対してマイバックを使ってもらえるよう、どのように対応していくかについては課題の一つであると認識している。

【青木座長】

ポイ捨てではない流下ごみはあるのか。

【三重県】

個人的な感触だが、基本的には人工物は全てポイ捨てごみに由来すると考えるべきかと思う。

【蒲郡530運動推進協議会】

大雨が降ると河川敷で栽培されたと思われるスイカやウリが海岸で見つかることがあった。しかし、最近は規制が強化されたのか定かではないが、そのような作物を海で見つけることは減ったと感じる。

以上